

トウキョウサンショウウオの産卵



2012年2月26日、岩舟町の産卵場には約30個体のトウキョウサンショウウオが集まっていた。そのうちの多くは雄で、雌がやってくるのを今か今かと待ちわびていたのだ。

日が暮れた頃、ようやく数個体の雌が産卵場に訪れる。その時点で雄は興奮状態となる。水中にある木の枝などにしがみつき団子状になる。そこへ雌がやってきて一対の卵のう（卵の入った袋）を木の枝などに産み付ける。雄は産み出されたばかりの卵のうに精子をかけ、体外受精が成立するのだ。

産み出されたばかりの卵のうは、まだシワシワで青白い光を発しているが、すぐに水を吸収して膨らんでくる。真ん中の写真は、産卵1日後の様子で、青白い独特な色彩が美しい。

下の写真は産卵場全体を示したもので、○の中にトウキョウサンショウウオが集まっている。ちなみに本種は佐野市の天然記念物に指定されている。